

ロスジェネ世代は愚痴りたい でも、選択肢は増えています

僕はバブル崩壊後の景気低迷期に就職したいわゆる「ロスジェネ世代」です。僕らの世代は、希望の職業に就けないまま非正規や無職になり、この年齢になっても低賃金にあえいで家族を持たず、将来に不安を抱く人も少なくありません。

高度経済成長期を生き抜いた親の世代とは経済的な世代間格差があって、愚痴や不満がいっぱいあります。僕はそれを、毒舌で面白おかしく話しますが、実は「自分の人生を楽しんで」という親世代へ送る遠回しのエールです。子どもに面倒をかけたくないと、親はいつでも心配しますから。

僕も皆さんも親よりも貧しく不安定な「不遇の世代」ですが、世の中は確実に変わっています。僕らがシニアと呼ばれる頃には、今よりも人生を楽しむ選択肢が増えていると思います。

「彩の国シニア応援大使」として、今年もシニアが生き生きと働く現場を訪問して話を聞きました。正直に言うと、人の話を聞くよりも、僕はしゃべることが楽しいし面白い。これは落語家の本能です。

一方で、今まで知らなかった世界で働く人の発想や考え方は新鮮です。落語界は世間から見たら異常ですよ、きっと。落語家は年齢を重ねても変わっていますから、一般の常識は通じない。だから、普通のシニアを知ることは僕にとっては目新しく、本芸にも生きています。

現場訪問を通して気づいたのは、定年後は仕事をする、しないの選択ではないということです。例えば週2日働ける人を3人雇用して、1週間分の業務を行っている企業もあります。現役時代は多くの時間を仕事に使っていますが、定年後はもっと自由に、自分の好きなように時間を使えます。

また、業績第一、株主優先という企業がある一方で、地域社会や従業員を大切に思う経営者も確実に増えていて、シニアの雇用にも積極的です。会社や仕事に愛着があれば必ず利益をもたらすという考え方が根底にあるのでしょう。会社と社員が共有する信頼感や感謝は昭和的ですが、日本企業のいい姿かもしれません。

働き方の選択肢は確実に広がっています。さて、ロスジェネ世代の皆さんの選択は？



三遊亭鬼丸 (さんゆうてい・おにまる)

1972年生まれ。長野県出身、さいたま市在住。故三代目三遊亭圓歌に弟子入り、97年に初高座。

2009年、NHK新人演芸大賞入選。10年、真打に昇進して「鬼丸」を襲名しました。

FM NACK5「GOGOMONZ(ごごもんず)」に出演中です。